

SDGs トリシマの具体的な取組み

SDGs 目標11番[まちづくり]

11 住み続けられる
まちづくりを



住み続けられるまちづくりを

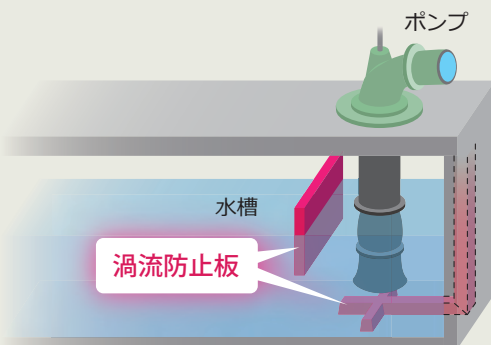
安心して暮らせる、災害に強いまちをつくる

現在、地球上には約75億人が暮らしていますが、その約半数が都市部に集中しており、その数は今後ますます増えていくと予測されています。都市での生活は便利で快適な一方、人が増えるとさまざまな問題も出てきます。国や地域によってはインフラの整備が追いつかなかったり、車の排気ガスなどで空気が汚れたり、大量のごみを処理しきれなかったり……。また建物や人が多いと、ひとたび災害が起きたときの被害も大きくなりがちです。そこで、平時から緊急時に備える防災はもちろん、実際に災害が発生したときもスムーズに復旧できるまちづくりを進めておく必要があります。

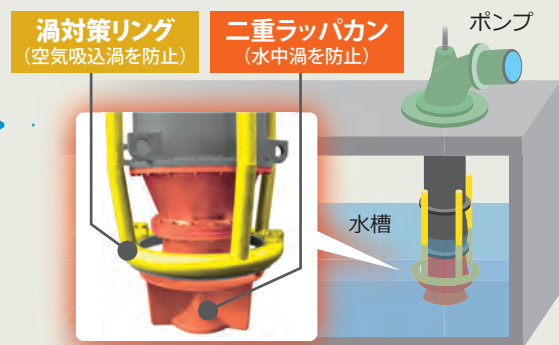
トリシマは、大雨が降ったときに河川が氾濫しないよう、大量の雨水を吐き出す大容量ポンプの提供をはじめ、水害対策を施した独自の技術で減災に貢献。人間が自然をコントロールすることは不可能ですが、いざというときに少しでも被害を小さくできるよう、まちを守っていきます。

ポンプ本体による渦抑制技術(二重ラップカンと渦対策リング)

従来の渦対策



ポンプ本体による渦対策



近年多発するゲリラ豪雨などに備えて、排水機場ではポンプを大容量化するケースが増えています。しかし、水槽の寸法は既設のまま増量すると、水槽内の流速が速くなり、ポンプにダメージを与える渦が発生します。その対策として従来は渦流防止板を設置していましたが、多額の工事費と日数がかかります。そこでトリシマは、ポンプ本体で渦を抑制する技術を開発。工事費の削減と工期の短縮を可能にしました。

耐水モーター体型ポンプ

ポンプ場では浸水時に電動機が水没しないように、二床式などの方法がとられていますが、想定以上の降雨などで電動機が水没した場合はポンプの運転が不能になります。そこでトリシマは、耐水モーターとポンプを一体化。ポンプ室が万一浸水してもポンプの運転継続や速やかな復旧が可能で、一体構造のため耐震性にも優れています。

耐水モーター体型ポンプ

